

会員報告

灘のけんか祭り

兵庫頸髄損傷者連絡会 土田浩敬

こんにちは。

兵庫県姫路市白浜町の松原八幡神社で行われる秋季例大祭、通称「灘のけんか祭り」へ行ってきました。正式には「松原八幡神社秋季例祭風流」といい姫路市と兵庫県の重要無形民俗文化財に指定されています。10月を“祭り月”と呼ぶほど播州地域（主に兵庫県南西部）で様々な祭りが行なわれています。

そもそもなぜ今回、「灘のけんか祭り」を見に行こうと思ったきっかけは、去年高砂市にある曾根天満宮の秋季例大祭を見に行ったからです。絢爛豪華で様々な装飾を施してある勇壮な屋台は迫力があり芸術品です。各地域で一致団結して祭りを、そして地元を盛り上げる姿、祭りに対する強い思いに心を打たれました。祭りの非日常な雰囲気とずらりと並ぶ露店、老若男女全ての人の思いが、秋季例大祭を作り上げているのだと思いました。そんな播州の秋祭りに次回も参加したいと思ったわけです。



絢爛豪華な祭り屋台

本宮が15日、知人で頸損の伊藤靖幸さんと見に行ってきました。そして、灘在住で車椅子利用者の林さんに祭りを案内していただきました。最寄りの山陽電車白浜の宮駅で林さんと待ち合わせました。以前、白浜の宮駅を利用した時よりも人が多いです。皆さん灘のけんか祭りを見に来られた方が殆どで、沢山のの人に祭りが周知されているのだと実感します。程なくして林さんと合流。林さんから赤い鉢巻きをいただきました。この赤

は旧松原村の赤で、これを身に付けていると困った時に助けてくれるとのこと。赤い鉢巻きを身に付けると、祭りを見に来た実感が、より増して来ました。白浜の宮駅から歩いてすぐ、松原八幡神社に着きました。境内には屋台と沢山の人が溢れ帰っています。各村の屋台を担ぎ上げ、堂々とした姿を見せ観客を魅了しています。「一の丸」「二の丸」「三の丸」それぞれの神が乗り移られた神輿を担ぎ上げ、三基の神輿を激しくぶつけあう。これがけんか祭りの語源だそうです。

境内から神輿が出て来て、御旅山の方へ向かうのですが、道中も笛の音と太鼓の音が祭りの雰囲気盛り上げます。御旅山の麓で三基の神輿を激しくぶつけ合います。観覧客で山肌を埋め尽くすほどの人で、その風景も圧巻でした。人の数が凄くて御旅山での神輿がぶつかり合う様子は伺うことが出来ませんでした。祭りの雰囲気は十分味わうことが出来ました。



皆さん一致団結する姿に心を動かされた!!

車椅子でも季節の行事、地域の風物詩を体感したいものです。中でも、播州の秋祭り、地域ごとに特色はありますが、それぞれに共通することは地元への思い、祭りに対する情熱ではないでしょうか。代々受け継がれてきた播州地域の風習、今後も発展するとともに、魅力あり続ける秋祭りであって欲しいと感じました。